

(別紙1)

自己評価及び外部評価結果  
作成日

平成 23年7月1日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2792700029		
法人名	株式会社 ケア21		
事業所名	グループホームたのしい家大正		
サービス種類	認知症対応共同生活介護 介護予防認知症対応型共同生活介護		
所在地	大阪市大正区平尾3-14-8		
自己評価作成日	平成23年4月26日	評価結果市町村受理日	平成23年7月15日

【事業所基本情報】

介護サービス情報の公表制度の基本情報を活用する場合	<a href="http://osaka.kaigokouhyou.jp/otasuke/start.action">http://osaka.kaigokouhyou.jp/otasuke/start.action</a>
情報提供票を活用する場合	(別添情報提供票のとおり)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 ケア・ウィル
所在地	大阪府吹田市千里丘下20-16
訪問調査日	平成23年5月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>ケア21の経営理念</p> <ol style="list-style-type: none"><li>①福祉、教育、文化の3分野を通じて社会貢献</li><li>②最大でなく最高の福祉サービスの提供</li><li>③人間の尊厳を尊重し、ご利用者本位の真心と優しさのこもった福祉サービスの提供</li><li>④日本のヘルスケア産業のリーダー企業を目指す</li><li>⑤福祉理念と市場原理の融合</li><li>⑥現場第一主義</li><li>⑦徹底討論、徹底和解</li><li>⑧人を大切にし人を育てる</li></ol> <p>を大切にしています。</p>
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>商店街の中にある当ホームは、平成19年に開設した2ユニットから構成され、ケア21が運営している。入居者様・家族様第一の理念に基づき、最大ではなく最高の介護を提供する事を目的とする。研修も法人内部で充実しており、職員に対するキャリア支援体制が整っている。若い職員はベテラン職員を通して学び、入居者に接することで感じ、理念の一つでもある「入居者本位」のケアの実現に向け取り組んでいる。職員は穏やかな態度で入居者に接しており、入居者も笑顔で応えるなど、和やかな雰囲気である。ホーム内は全体的に窓が大きく、自然の光がとり入れられ、雰囲気は明るく清潔に保たれ、居心地の良い空間となるよう配慮されている。提携医療機関との連携ができており、家族も安心できる環境になっている。</p>
---

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容	
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	真心と優しさのこもったサービスを心がけている。	朝礼時や職員同士の話し合いの場で、理念について個々の職員で確認し、意識して行動している。各職員は理念を常に意識して、入居者にとってホームでの生活を楽んでもらえるよう、取り組んでいる。		会社の理念と共に、ホームとしての地域特性に応じた独自の理念を持つ事で、より質の高いケアの実践が出来る事に期待したい。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	商店街の中に施設があるため日々の買い物や散歩中挨拶や会話を心がけている。	ホームが商店街の中にあり、買い物に行く事で顔なじみになっている。地域の方との交流、近くの公園や近隣のふれあい喫茶に足を運ぶ事で、地域の一員としての関わりを大切にしている。		
3		○事業所の力を活かした地域 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	見学希望される方の見学受入れや、説明等している。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行っており日々努力しています。	2カ月に1回運営推進会議が開催されている。参加可能な家族と民生委員、包括支援センター職員、ホームの管理者と職員の参加により開催される。議事録を参加出来なかった職員に回覧し、役所にも提出している。会議では入居者の現状等を話し合い、時にはアドバイスを受け、支援に活かすようにしている。		役所に会議報告は行われているが、できるだけ役所の職員にも参加して貰う事で、今後の運営やサービスの質の向上に期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くように取り組んでいる	社会福祉協議会と月に2度程情報交換を行っている	2カ月に1回市役所により連絡会が開催され、参加している。又、社会福祉協議会から月2回の訪問を受け、情報交換が行われている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる	玄関の開錠はできていないが、定期的に研修を行っている。	センサーマットの取り扱いについて、ホーム内で検討し、現在センサーマットの利用は行っていない。各フロアの施錠は無いが、玄関ドアには出入り両方とも電子錠により管理されている。一時的な開錠時間を設けてみる等、職員間で検討している。		電子錠のシステム変更は困難であるが、各職員間で身体拘束をしないケアの実践・検討を行う事で、入居者にとってより良いサービス・ケアができるよう期待したい。

7		○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入浴や更衣時の日頃の確認をし、虐待についての研修も定期的に行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度については知っているが該当者なし。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時説明している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	計画作成担当者が聞き取りケアプランにも反映するよう心がけている	家族の来訪時には気兼ねなく相談できる環境作りに努めている。また、玄関には意見箱を置き、より多くの意見や要望を出してもらえるよう配慮している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議やフロア会議を共に月1回行っている	月1回以上、管理者を含めた会議を開き、職員一人ひとりの意見や提案、話し合いの機会が設けられ、言い易い環境を作っている。又、出来るだけ意見を取り入れ、さらに職員の意識を高める様に努めて、サービスに反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ほめカード、誰伸び制度を導入で対応している		

13	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている			
14	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている			
<b>Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の体験入居の1泊2日～3泊4日まで実施し、聞き取りをしている。		
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	管理者、ケアマネージャ等が直接会い確認している。		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアマネージャー、スタッフで話し合いサービス提供に努めている。		
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の準備、掃除日頃のできるすべてをスタッフと一緒にしている。		

19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々の状態を面会時に報告したり、行事に家族様も参加してもらい一緒に楽しむようにしている。		
20	8	○馴染みの人や場の関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人の面会や外出、外泊可能	友人や知人等に自由に来訪してもらえるよう、家庭的な雰囲気大切にしている。また、計画作成を定期的に見直し支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努める	日々注意している		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族様との挨拶やお礼の気持ちを持ちコミュニケーションをとっている		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	たのしく安全に暮らせるように心がけている。	職員は日々の生活の中で、入居者の行動や表情、会話から思いや意向を汲み取るよう努めている。関わり方や方法等については、入居者にとって一番よい方法を職員間で話し合い、情報を共有し、本人の意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族様に聞き取りをしスタッフ間で情報共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	フロアー会議にて検討している。		

26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング          本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>3～6ヶ月に1度話し合いの機会をもち検討している。</p>	<p>入居時に、本人、家族の意向を聞き、それをもとに介護計画を作成している。会議を定期的に行き、入居者の状況を把握し、評価を行っている。また、状態の変化に応じて見直しを行い、担当医、看護師の意見も確認し、現状に即したケア計画になるよう努めている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映          日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>気づきノートや連絡帳の観覧により情報共有している。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化          本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>個々に対応している。</p>		
29		<p>○地域資源との協働          一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>ふれあい喫茶、ボランティアの受入れ、定期的な消防訓練を実施している。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断          受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>ホームドクターもいるが、入居時に希望を聞き対応している。</p>	<p>入居時にかかりつけ医の確認をしている。月2回提携医の往診があり、必要時には医師の指示や往診が受けられ、連携が図られている。又、必要に応じた、訪問歯科の協力・連携も図られている。</p>	
31		<p>○看護職員との協働          介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している</p>	<p>看護師資格を有する職員がおり相談をできる環境にある。訪問看護も週1回で訪問し状態を共有している。</p>		

32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	定期的に状況確認し施設内で介護計画を考えている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に説明を行っているが現在まで該当者なしのため、法人内で勉強会に参加し事例検討を確認している。	重度化した場合における対応に係る指針があり、入居時に説明している。開設して4年が経過するが、看取りの経験はまだ無い。本人や家族の意向を踏まえ、医療機関と連携を図り、安心して納得した最期を迎えられる体制で支援している。	看取りの経験は無いが、今後、月日が経つにつれ、重度化が進み、ホームで最期を迎えたいという意向も出てくると考えられる。医療・介護の両方で支えられるよう日頃から話し合い、チームとして方針を共有されることを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルの掲示、全スタッフ大阪市の救命講習を定期的に受講、法人研修も行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防計画を立てているが実践的な訓練ができていない為実施して行きたい。	消防計画を立て、避難訓練を年2回実施している。地域の消防団との協力関係が築けている。各職員が避難場所への経路の把握等、取り組んでいる。	今後は、夜間を想定した訓練の実施や災害時に備えて食料、飲料水、防災用品等についての備蓄品の管理がさらに充実されることに期待したい
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	コンプライアンス研修を定期的に受け、朝の申し送り内マニュアルを1日1ページ読んでいる。	個人の尊厳を重視して、ケアに当たるよう管理者は指導している。各職員はコンプライアンス（法令順守）の研修を受け、日々の言葉使いや関わりの中で、入居者との会話が馴れ合いにならないよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意志表示できる方の意見はしっかり聞き、意思表示困難な方は会話やしぐさより汲み取り支援している。		

38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースを大切に し支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時に髭剃りや整容に気をつけ、2ヶ月に1度訪問理容の方に来て頂いている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	朝食メニューは利用者様より聞き取り買い物なども一緒に行っている。	献立と食材は業者に委託し、栄養バランスやカロリーに配慮できるような援助ができています。又、朝食のメニューについては、利用者から聞き取りを行い、一緒に買い物に出かける等、食事への楽しみがもてるように取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人記録にて水分トータル量や食事量のチェックを行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ホームドクターにより週1回程度の点検含め指示をもらい、毎食後口腔ケアを実施している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	オムツ、リハビリパンツを安易に使わず会議等で検討後使用するようにしている。	一人ひとりのアセスメントをしっかりと行い、日中の様子から排泄パターンを把握している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個人記録活用し食事量、水分量を把握し医師の指示にて下剤でコントロールしている。		

45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>入浴予定はあるが希望によりその都度変更して対応している。</p>	<p>週に2～3回の入浴であるが、希望があれば入りたい時にいつでも入浴できるような支援を職員は心がけている。拒否や抵抗のある方には個々に関わり方の工夫を行い入浴を楽しんでもらえるよう努めている。</p>	
46		<p>○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>入眠前にホットミルクを提供するなど個々の生活リズムに合わせた支援を行っている。</p>		
47		<p>○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>薬剤師による管理を行い、服薬チェック表を活用している。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>散歩、買い物、体操等日々何か楽しめるものを提供しています。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>買い物、散歩なので希望には添えているが遠方の希望は叶えられていない。</p>	<p>商店街の中にホームがあり、散歩・ショッピングには好条件である。日常的に外出できるような、個別支援を工夫し、取り組んでいる。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>物を選んでもらう事はしていますが支払いまでできていない。</p>		

51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人 自らが電話をしたり、手 紙のやり取りができるよ うに支援している	ご希望により年賀状を 送るなど対応してい る。		
52	19	○居心地のよい共用空間づ くり  共用の空間（玄関、廊下、 居間、台所、食堂、浴室、 トイレ等）は、利用者にと って不快や混乱をまねく ような刺激（音、光、色、 広さ、温度など）がないよ うに配慮し、生活感や季節 感を採り入れて、居心地よ く過ごせるような工夫をし ている	入居者様の気分にあ 合わせた環境作り に取り組んでいます。	暖色の照明は暖かい印象 を受け、季節感のある飾り 付けは落ち着ける空間作 りとなっている。外出した 際等の思い出の写真・ア ルバムが置かれており、 テーブルや椅子、ソファ ーの設置により、リビ ングに自然に入居者が 集まり、寛いでい る。	
53		○共用空間における一人 ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独り になれたり、気の合った 利用者同士で思い思いに 過ごせるような居場所 の工夫をしている	マッサージチェアを 置き、壁飾りなど 利用者様と製作し飾 り楽しんでもらえ るよう工夫してい ます。		
54	20	○居心地よく過ごせる居 室の配慮 居室あるいは泊まりの 部屋は、本人や家族と相 談しながら、使い慣れた ものや好みものを活か して、本人が居心地よ く過ごせるような工夫 をしている	本人や家族様の意見 を聞き対応してい る。	入居者が今まで使っ てきた物や、思い出の 多い鏡台、位牌等を持 ってきてもらっている 等、馴染みの環境等 の配慮がなされ、居 心地よく過ごせるよ うな工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活 かした安全な環境づ くり  建物内部は一人ひと りの「できること」や 「わかること」を活 かして、安全かつでき るだけ自立した生活 が送れるように工夫 している	情報を共有し ていただける事 はしてもらおう ようにしてい ます。		

V アウトカム項目			
56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の3分の2くらいの
			③利用者の3分の1くらいの
			④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の3分の2くらいと
			③家族の3分の1くらいと
			④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどいない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くない
66	職員は生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の3分の2くらいが
			③職員の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
68	職員からみて、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族が
			②家族の3分の2くらいが
			③家族の3分の1くらいが
			④ほとんどできていない